

# 日本の自治体におけるSDGsの認識状況：未来都市の計画・事業内容を題材として

総合地球環境学研究所 増原 直樹, 法政大学 岩見 麻子, 大阪大学 松井 孝典



## はじめに：モデル都市→環境未来都市→SDGs未来都市

- 2015年9月、国連総会でSDGs(Sustainable Development Goals)採択⇒政府、企業、自治体等様々な主体がSDGs関連の取組みを開始
- 問題意識：**日本の自治体がSDGsをどのように認識し、自治体計画の中に取り込もうとしているのか？**
- 研究目的①環境モデル都市・環境未来都市からSDGs未来都市に至る経緯を明らかにする
- 目的②29のSDGs未来都市が掲げる**目標・ターゲット分布の可視化**
- 目的③各ターゲットの進捗を評価する指標としての**KPIの内容を要約**。

## 1. 分析データおよび分析方法

- モデル都市・未来都市を所管する内閣府地方創生推進事務局のWEB及び担当者**インタビュー調査**(2018年3月23日)の他、環境モデル都市については増原(2010)のデータを利用
- 主な**分析対象**：**SDGs未来都市計画**、各計画の記載されている「優先的に貢献しようとするSDGs目標(計17)とターゲット(169)」
- 優先目標とターゲットを**すべてリスト化**し、単純集計及びクロス集計⇒上位のターゲットに関するKPI(Key Performance Indicator)抽出・要約
- 自治体SDGs指標検討委員会(2018)が提唱した**ローカライズ指標(都道府県レベルでは81指標)**との関連性についても検討

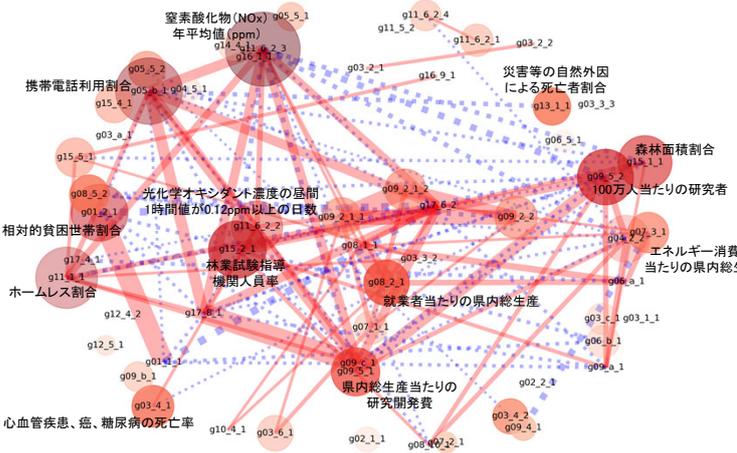


図3 都道府県ローカライズ指標の相関関係とページランク指標 (赤 = 正の相関, 青 = 負の相関)

## 2. データ加工の詳細(図の見方)

- ①自治体SDGs指標検討委員会(2018)が提示する都道府県レベルのローカライズ指標のうち、入手可能な60指標のデータベースを作成(大阪大学工学部松井研究室・川分絢子氏ご協力)
- ②上記60指標すべてについて相関分析(図3の各指標をつなぐライン)と共に、他ターゲットへのページランク指標を算出(図3のノードの大きさ)
- ③図1の集計結果を用いて、SDGs未来都市29都市のうち取り組んでいる割合を図3のノードの色の濃さで示した。

表 SDGs未来都市計画における上位5つのターゲットに関するKPI

17.17 様々なパートナーシップ経験や資源戦略を基にした効果的な公的、官民、市民社会パートナーシップの奨励・推進 <b>市民社会の協働指標</b> まちづくりに対して関心の高い住民割合 健康であると感じる市民の割合 市に住み続けたいと思う人の割合 シチズンカレッジを受講した人のうちシチズンシップが身についた人の割合 ESDプロジェクト参加団体数 企業版ふるさと納税寄付企業数 SDGsデザインセンターによる事業推進	7.2 2030年までに世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギー割合を大幅に拡大 <b>再生可能エネルギーの活用指標</b> 再生可能エネルギー(電力)自給率 再生可能エネルギー導入量 市内における温室効果ガス排出量 地域PPSによる再エネ発電施設からの電力調達割合(契約電力比) 公共施設の太陽光発電設備導入箇所数 低炭素社会推進の取組への満足度 熱供給エネルギーステーション数	8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型政策の促進、金融サービスへのアクセス改善等を通じて中小零細企業設立や成長を奨励 <b>就業・企業の取組指標</b> 市内総生産額 市内就業者数 新規起業家数 「希望する職場で就労できている」と感じる市民の割合 起業家型人材の地域へのマッチング数 企業誘致・雇用対策に関する市民満足度 新製品、技術等開発の取組件数	11.3 2030年までに包括的かつ持続可能な都市化を促進、すべての国々の参加型、包括的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力強化 <b>都市計画の取組指標</b> 都市計画マスタープラン拠点の居住人口 中心市街地の休日1日当たりの通行者数 現在の町は住み良いと感じる住民率 関係人口から定住へのステップアップ延べ人数 国等の広域連携制度に取り組む地域数 本計画で構想する事業体から町への収益還元額 SDGsをテーマとした連携自治体数	8.9 2030年までに雇用創出、地元文化・産品販促につながる持続可能な観光業促進のための政策立案、実施 <b>観光を測る指標</b> 年間入込客数、観光客数、観光消費額 文化芸術イベント来場者数 歩行者通行量 エコツーリズムとピースツーリズムを融合した新たなツアーコース数 ヘルスツーリズム受入数(年間) 町の資源を活用した健康プログラム開発件数 県外からの観光入込客数(うち外国人客)
---	---	--	---	--

## 結果の概要および今後の課題(まとめにかえて)

- SDGs未来都市計画が優先的に貢献しようとするターゲットを個々に集計すると、**17.17(パートナーシップ)**と**7.2(エネルギーミックス)**が**最多**であった。
- 一方、17目標別に集計すると、項目の多い17が比較的下位になり、**7(エネルギー)**や**8(働き方と成長)**、**11(まちづくり)**、**13(気候変動)**が**上位**に位置した。
- 今後の課題として、**市町村レベルのローカライズ指標**の分析、KPIの階層性を明らかにすることなどがある。

2回以上指定されている自治体の一覧

都道府県	市区町村	環境モデル	環境未来	SDGs未来	①生存率	②生存率
北海道	下川町	○	○	○	○	○
神奈川県	横浜市	○	○	○	○	○
富山県	富山市	○	○	○	○	○
福岡県	北九州市	○	○	○	○	○
宮城県	東松島市	○	○	○	○	○
茨城県	つくば市	○	○	○	○	○
愛知県	豊田市	○	○	○	○	○
奈良県	生駒市	○	○	○	○	○
大阪府	堺市	○	○	○	○	○
熊本県	小国町	○	○	○	○	○
	他14市町村	他6地域	他19市町村	9+23	5/11	39%=45%

## 環境モデル都市：計23

○2008年～2014年にかけて選定  
SDGs未来都市への生存率①39%

## 環境未来都市：11

○2011年12月選定。17年10月に5年間の評価を終え、完了?  
SDGs未来都市への生存率②45%

## SDGs未来都市：29

○2018年6月選定。

**すべてに選定の「期待の星」:**  
**下川町、横浜、富山、北九州市**

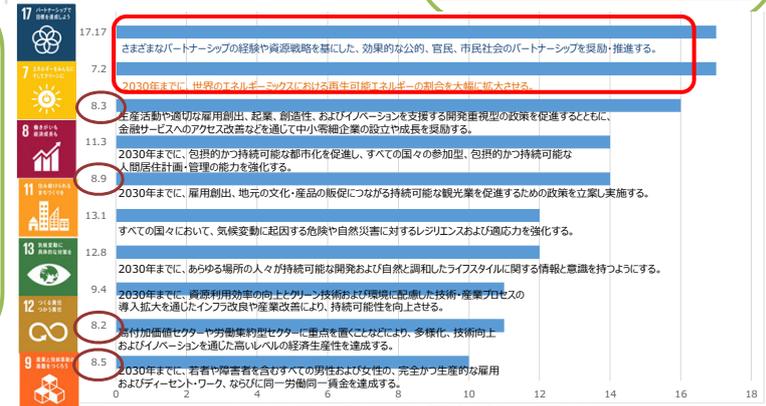


図1 SDGs未来都市計画が優先的に貢献しようとするターゲットの上位10項目 (n=29, 単位は記載回数)



図2 SDGs未来都市計画が優先的に貢献しようとする目標の集計結果 (n=29, 単位は記載回数)